

今週のことば「さばき」

せいし ふくいんし
《聖書》ルカによる福音書 3:10-18

せいし かた ばつ
聖書で語られる「さばき」は、罰する
もくてき しやかい せいぎ
ことが目的ではなく、社会に正義をうち
りっぱう きてい
たてることなのです。たとえ律法の規定
じっさい せんがい つぐな
があったにしても、実際には、損害が償
かかじん けんり せんちよう
われ、各人の権利が尊重されていたわけ
りっぱう きてい
ではありませんでした。律法の規定はあ
り せう
くまでも理想なのです。

せんらいしや いま かみ
洗礼者ヨハネは、今のままでは神のさ
ひとびと かみ た
ばきにたえられないので、人々が神に立
かえ よ かみ
ち帰るように呼びかけます。神のさばき
もんく
は、ただのおどし文句ではありません。
かみ あい あい たみ ほん きよう
神の愛は、愛している民を滅ぼすほど強
りつ たみ
烈なものです。イスラエルの民は、バビ
っ い はじ
ロンに連れて行かれて初めて、さばきを
よ げん ひと ことば おも だ
預言した人たちの言葉を思い出したので
どうじ ことば なか かく
す。同時に、さばきの言葉の中に隠され
ことば き
ていたなぐさめの言葉にも気づくように
き
なったのです。レビ記26:40-45において、
かみ たみ ばつ けつ
神がたとえ民を罰することがあっても決
けいやく わす たみ ほん
して契約を忘れず、民を滅ぼしつくすこ
い
とはないとはっきり言われています。

じっさい よ げんしや
しかし、実際には、こうした預言者の
ことば むし はくがい う
言葉は無視されたり、迫害を受けたりし

ました。むしろ、「平安だ、平安だ」と
い よ げんしや
言う預言者がもてはやされました。きつ
い よ げん もの
いことを言ってさばきを預言する者より、
じ ぶん いま じゅうたい い
自分の今の状態でいいんだと言ってくれ
もの う い じ だい
る者を受け入れるのは、いつの時代もか
わりありません。

わたし せいしよ ことば なか じ ぶん
私たちは、聖書の言葉の中で、自分に
っ ごと と い
都合のいいことだけを取り入れようとし
かみ ことば き
ます。神のさばきの言葉を聞こうとしま
ことば よ
せん。ただ、なぐさめの言葉だけを読
くに ほん
うとします。それでは、国を滅ぼされ、
つ い たみ おな
バビロンに連れて行かれた民と同じです。
よ げんしや べつ あたら い
預言者は、別に新しいことを言ったわ

りっぱう しゅ か
けではありません。律法の書に書いてあ
おも だ い
ることを思い出すように言っただけです。
わたし よ げんしや なか み らい
私たちが、もし預言者の中に未来のなぐ
よ げん み
さめの預言だけを見いだそうとするなら、
かみ ことば き よ げん
神の言葉を聞こうとしないのです。預言
しや ことば み らい いま せいかつ
者の言葉は、未来のことよりも今の生活
はんせいざいりよう いま
についての反省材料とすべきです。今、
じ ぶん かみ ことば い
自分は神のみ言葉にふさわしく生きてい
とうじ ひとびと せんらいしや
るでしょうか。当時の人々が、洗礼者ヨ
ことば みみ かたむ わたし
ハネの言葉に耳を傾けたように、私たち
みみ かたむ
も耳を傾けているでしょうか。

たいこうせつだい しゅじつ ねん たきの
待降節第3主日C年(滝野)